

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨主日 41 周年記念礼拝 2021 年 5 月 23 日

前奏：

聖名による挨拶

聖名による挨拶をいたしましょう。伊丹ルーテル教会の 1980 年の創立以来、ここでイエス・キリストの福音が宣べ伝えられ、多くの方々に罪の赦しと新しいいのちがもたらされたことを感謝をいたします。

牧師：父と御子と聖霊の御名によって。アーメン。

会衆：アーメン。

牧師：主よ、わたしのくちびるを開いて下さい。

会衆：そうすれば、私の口はあなたのほまれを告げるでしょう。

一同：父と御子と聖霊の神に、栄光が、初めにそうであったように、
今も、そしてとこしえまでもありますように。アーメン。

招きのことば：詩編 104 編より

主よ、御業はいかにおびただしいことか。あなたはすべてを知恵によって成し遂げられた。地はお造りになったものに満ちている。命ある限り、わたしは主に向かって歌い 長らえる限り、わたしの神にほめ歌をうたおう。わたしの魂よ、主をたたえよ。ハレルヤ。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆：私たちは生まれつき 自分中心 わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。 （短い黙祷を持ちましょう）

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子 イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。

ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、

ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、
父なる全能の神の右に座したまえり。

生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、
からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。**アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

1980 年、昭和 55 年の聖霊降臨日の礼拝から、ここ伊丹ルーテル教会でイエス・キリストの福音が宣べ伝え始められました。神様、あなたは一握りの人々の心に願いをおこさせ、まちの人々を愛し、伊丹教会はよい地にまかれた種のように多くの実を結んでまいりました。神様、あなたの導きを感謝をいたします。

多くの方々がここでイエス様のみ救いにあずかり、人生を変えられ、また多くの兄弟姉妹がここから御国に召されていかれました。たくさんの牧師先生方、宣教師の先生方が信徒の皆さんとひとつになって、主の恵みにあずかってきました。試練に会うごとに、イエス様に頼りなおして、神様のみわざを経験してまいりました。神様、あなたの導きをこころから感謝をいたします。

これからも聖書のみ言葉が純粹に語られ、洗礼と聖餐がみ言葉の通りに執り行われるイエス・キリストの教会として、私たちを豊かに導いてください。神様、あなたの導きをお祈りいたします。

神さま、あなたは私たちに聖霊を送り、救い主であり主であるイエス様を思い起こす信仰を与え、実生活を導いてくださいます。今日もみ言葉をもって私たちを養ってください。どうぞお語りください。

新型コロナウイルスの感染拡大によって今多くの方々が苦しみの中におられます。私たちも毎日こわくなります。緊張します。どうぞ、助けてください。

病気の人のお世話をしたり、生きていくために必要なものを整えて働いてくださる方々が苦勞しています。お支えください。

今週もビデオやプリントによって、私たちは別々のところで同じ礼拝にあずかります。このために力になってくださった方々を祝福してください。

私たちはよみがえられた主イエス様のみ言葉を聴きます。どうぞお語りください。

このお祈りを、イエス様の御名によっておささげいたします。**アーメン**。

使徒書：使徒言行録 2 章 1-21 節

五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、

ほかの国々の言葉で話した。さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」人々は皆驚き、とまどい、「いったい、これはどういうことなのか」と互いに言った。しかし、「あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、あざける者もいた。すると、ペトロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始めた。「ユダヤの方々、またエルサレムに住むすべての人たち、知っていただきたいことがあります。わたしの言葉に耳を傾けてください。今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが考えているように、酒に酔っているわけではありません。そうではなく、これこそ預言者ヨエルを通して言われていたことなのです。『神は言われる。終わりの時に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を見る。わたしの僕やはしたためにも、そのときには、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。上では、天に不思議な業を、下では、地に徴を示そう。血と火と立ちこめる煙が、それだ。主の偉大な輝かしい日が来る前に、太陽は暗くなり、月は血のように赤くなる。主の名を呼び求める者は皆、救われる。』

福音書：ヨハネによる福音書 15 章 26-27 節、16 章 4 b – 15 節

わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方がわたしについて証しをなさるはずである。あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのだから、証しをするのである。

「初めからこれらのことを言わなかったのは、わたしがあなたがたと一緒にいたからである。今わたしは、わたしをお遣わしになった方のもとに行こうとしているが、あなたがたはだれも、『どこへ行くのか』と尋ねない。むしろ、わたしがこれらのことを話したので、あなたがたの心は悲しみで満たされている。しかし、実を言うと、わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。わたしが去って行かなければ、弁護者はあなたがたのところに来ないからである。わたしが行けば、弁護者をあなたがたのところに送る。その方が来れば、罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする。罪についてとは、彼らがわたしを信じないこと、義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなること、また、裁きについてとは、この世の支配者が断罪されることである。言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分

から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。父が持っておられるものはすべて、わたしのものである。だから、わたしは、『その方がわたしのものを受けて、あなたがたに告げる』と言ったのである。」

説教「キリストの交わりに御霊が来る」説教者：池上安牧師

伊丹教会創立 41 周年を記念して、本日は 1986 年から 1993 年まで牧師をおつとめくださった池上安牧師に神様の恵みのみ言葉をとりついでいただきます。

伊丹教会の記念日、ペンテコステのこの日に、ご一緒に礼拝に与られますことを感謝いたします。どうぞ、父と子と聖霊の神様の祝福がありますように。

主イエスは最後の食卓で弟子たちに言われました。《…実を言うと、わたしが去っていくのは、あなたがたのためになる。わたしが去っていかなければ、弁護者はあなたがたのところに来ないからである。わたしがいけば、弁護者をあなたがたのところへ送る。》(7)イエス様がそのままのお体でおられる限り、交わりは場所や時間の制約を受けます。イエス様がゆかれ、お働きを続けてくださる御霊が来て下さるなら、霊は何処にも居られる方ですから、時と場を超えて誰もが主イエスの交わりに与られます。イエス様が神様の傍で執り成し、御霊が私の所に来て助けてくださるといふ、私たちの受ける主の助けの確かさ、慰めの豊かさ保証されます。

まず聖霊のお働きは、8 節《…罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする》ことです。罪は人が神でないものを神とする、真の生ける神との関係の破れです。9 節《彼らが私を信じないこと》とありますが、キリストを伝えられ、教えられても信じないで拒否することです。あのユダヤ人たちは、イエス様から何幾も聞き、救い主であることを示されながら信じませんでした。

ペンテコステの日聖霊が降り、ペトロが聖霊に満たされて説教しました時、エルサレムに集まっていた何千人もが悔い改めに導かれました。使徒 2 章 37、38 節《人々はこれを聞いて大いなる心を打たれ、ペトロと他の使徒たちに『兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか』と言った。すると、ペトロは彼らに言った。『悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。』》実に、人が〈大いなる心を打たれる〉ほどに罪が解るのは聖霊の働きです。

さらに 10 節《義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなること。》とあります。ユダヤでは昔から「木に架けられる者は呪われる」と言われ、誰も十字架の囚人が正しいとは思いません。しかし神は、イエスを甦らせてご自身の右に上げ、

救い主であることを証しされたのです。ペトロは《わたしたちはこの事実の証人でありませう。また、神がご自分に従う人々にお与えになった聖霊も、このことを証ししておられます》(5:32)と明言します。聖霊が働かれるとき、これまで罪人だと思い込んでいたイエスが義なる方、正しい神の御子であることをはっきり知らされるのです。

そして11節《また、裁きについてとは、この世の支配者が断罪されることである》とあります。〈この世の支配者〉とは悪魔サタンです。ヨハネは13章で述べています。2節《夕食のときであった。既に悪魔は、イスカリオテのシモンの子ユダに、イエスを裏切る考えを抱かせていた》。さらに27節《ユダがパン切れを受け取ると、サタンが彼の中に入った》。悪魔がユダの内外に暗躍する姿を描きます。神様から遣わされた義なるお方が、世の憎しみと呪いを受けて十字架に殺される。

悪魔は勝利を叫んだでしょう。しかし、皮肉にも主イエスはそのように死に、しかも死を克服して、永遠のいのちに甦られました。ヘブライ2章14、15節《ところで、子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのものを備えられました。それは死をつかさどる者、悪魔を御自分の死によって滅ぼし、死の恐怖のために一生涯、奴隷の状態にあった者たちを解放なさるためでした。》

今の私たちはコロナ禍の最中、生きることにさえ不安を覚えます。悪魔は死の恐怖で私たちの良心を麻痺させます。「どうせ死ぬ、殺される」そんな不安や恐れで、悪や虚無の道へ進ませるのです。でも、キリスト・イエスが肉を取り、十字架に死に、甦り、昇天されたことにおいて、真に敗北したのは悪魔この世の支配者です。聖霊が来られることで、この終わりの裁きが明らかにされました。

聖霊は、13節《あなたがたを導いて、真理をことごとく悟らせ》ます。それは人間の救いに関わるキリストの真理です。約束の御霊は二千年昔に起こり、完成したイエス・キリストの歴史的な啓示の意味を証し、深く理解させます。

《悟らせる》は道を導くという言葉です。主イエスは、《わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。》(14:6)ともおっしゃいましたから、聖霊の導く道は文字通りイエス・キリストです。14節《その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けてあなた方に告げるからである》とおっしゃるように、聖霊のみわざは主イエスについて知らせ栄光を帰す、キリストにまつわる働きです。聖霊はイエス様からはじめに弟子たちが学んだことの意味を、私たちに深く悟らせるために導きます。新約聖書はその真理を解説した弟子たちの福音書や手紙です。彼らが勝手に新しい何かを添えたものではありません。それが二七巻を一書としてまとめられている理由です。

御霊の働きを受ける《あなたがた》とは、主の最後の食卓に同席し、新約聖書の著者にもなった十一人の使徒たちでしょうか。実は、すべての時代のキリスト者、世から憎まれても証を続けるクリスチャンです。私たちは生涯を越えて伝道し、知恵を尽くして証しします。しかし、真に人々の目が開かれ、悔い改めと信仰に導かれるのは御霊が来られる時です。主がニコデモに言われた通り、聖霊は私たちの思いを越えて働きます。とはいえ、備えはしないと決めつけてはいけません。聖書に素直に聞き、良心に信じて聴くところに御霊の導きは与えられますから。

(祈り) 主なる父、子、聖霊の神様。みことばの深みに、十字架に死に、甦られたイエス・キリストの真理にお導きください。御霊に満ちし、キリストの証しと愛の奉仕に向かわせてください。イエス様のみ名でお祈りいたします。アーメン。

讚美歌 499 番 「み霊よくだりて昔のごとく」 1, 2, 4 節

1. み霊よ、降りて、昔のごとく、くすしき御業を 現したまえ。

※代々にいます 御霊の神よ。いましもこの身に みちさせたまえ。

2. み霊よ、降りて めぐみの雨に かわける心をうるおしたまえ ※

4. み霊よ、降りて かよわき我を きよけき力に 富ましめたまえ ※ **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用のかてを今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり
アーメン

頌栄の讚美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神(みかみ)に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

祝福のことば

仰ぎ来い願わくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき御交わりが、それぞれのところで共に礼拝にあずかっておられる一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、ゆたかにありますように。**アーメン**

アーメン三唱、後奏